

2020年度(令和2年度)学校評価自己評価表

常金中学校区	校番 66	福山市立 常金丸小学校
最終更新日		2020年(令和2年)4月15日

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>○成果が表れている。重点を絞って取り組みを行ってもよい。</p> <p>○子どもに寄り添い、地域に目を向けた取り組みが行われている。</p> <p>○児童生徒のより良い育成・成長に取り組んでもらいたい。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>○安定した地域環境や家庭基盤から、児童生徒は純朴で基本的な生活習慣が身に付いている。</p> <p>○学校と地域が相互に協力して子どもを育てており、子どもは地域行事等へ積極的に参加する。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>課題解決力</p> <p>コミュニケーション力</p> <p>挑戦する力</p> <p>地域貢献力</p>	<p>郷土愛と志を持ち、深く考え、仲間とともにやりぬく子ども</p> <p>○小中合同研修によるパフォーマンス課題を取り入れた「子ども主体の学び」のある単元・授業づくり</p> <p>○ユネスコスクールとして、ESDの視点で児童生徒が探究し、行動する生活科・総合的な学習の時間</p> <p>○21世紀型“スキル&倫理観”の育成をめざす小中合同運動会</p>
---	---	--	--	---

III 自校

<p>ミッション</p> <p>「地域の宝」となる子どもを育成する。</p> <p>○子ども主体の学びの場を充実させ、児童に学力をつける。</p> <p>○児童に当たり前のことが当たり前にできる力をつける。</p> <p>○地域と進んで関わり、地域から学び、地域を元気づける力を児童につける。</p>	<p>学校教育目標</p> <p>「立志・貢献・郷土愛」</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>1・2年</p> <p>めざす子ども像</p> <p>3・4年</p> <p>考える行動するかわる</p> <p>5・6年</p>	<p>課題解決力</p> <p>コミュニケーション力</p> <p>挑戦する力</p> <p>地域貢献力</p>	<p>問題を理解し、それを何とか解決しようとしている。</p> <p>解決方法を学び、生活の場面に役立てようとしている。</p> <p>課題を見つけ、既習事項や生活経験を活かして解決しようとしている。</p> <p>様々な解決方法を知り学習や生活の場面に役立てようとしている。</p> <p>解決すべき課題を見つけ、情報を比較・分類・関連づけながら、解決までの見通しを持って課題を解決しようとしている。</p> <p>学んだ解決方法を駆使してよりよい方法で解決し、学習や生活の場に役立てようとしている。</p> <p>自分の思いを結論先行理由付けをして他者に説明している。</p> <p>自分の思いを伝え、相手の思いを受けとめている。</p> <p>自分の考えを結論先行理由付け、相手意識を持って他者に説明している。</p> <p>自分の考えを伝えて伝え、相手の考えを素直に受けとめている。</p> <p>自分の考えを結論先行理由付け、相手意識を持ってはっきりと説明し、他者の考えを聞いて、よりよい意見へと発展させている。</p> <p>自分の考えを適切に伝えたり、他者の考えを的確に受けとめたりしながら、互いのよさを認め合っている。</p> <p>決められたことを進んで実行している。</p> <p>友達と協力して、自分の役割を最後までやりきろうとしている。</p> <p>自分で決めたことを進んで実行している。</p> <p>友達と励まし合って物事を最後までやりきろうとしている。</p> <p>目標を決め、失敗を乗り越えながら挑戦している。</p> <p>他者と協働して、物事をねばり強く最後までやりきろうとしている。</p> <p>地域のひとと活動し、地域のよさに気付いている。</p> <p>地域の行事に進んで参加している。</p> <p>地域のことを体験的に学習し、地域のよさを知っている。</p> <p>地域の人に喜んでもらえることを考えて実行している。</p> <p>地域のことを体験的に学習し、地域のよさや課題を伝えようと考えている。</p> <p>地域の発展のためにできることを考えて実行している。</p>
<p>現状</p> <p>○国の学力調査からみた基礎的な学力や学習習慣は概ね身に付いている。しかし、学年差、教科差、観点差がある。</p> <p>○児童は真面目に授業に取り組む。自分でノートに考えを書いたり、発表したりすること、自分たちでゴールを決めて取り組む経験をしているが、全員に定着しているとは言えない。</p> <p>○入学から卒業まで同じ集団で過ごすため、お互いのことをよく知っている反面、お互いの見方が固定することでよさを認められていないと思う児童がいる。長期欠席児童はいない。</p> <p>○地域のひととの交流が多く、学校行事や生活科、総合的な学習の時間に地域が教室、先生が地域のひとという学びをすることができる。そのことを通して、自己肯定感を高めていく機会に恵まれている。地域からもよい評価や支援を受けている。</p> <p>○教師は意欲的に授業づくりに取り組む。児童の学力向上に熱心である。教職員間に温和で友好的な雰囲気がある。時間を意識した効率的な勤務時間外勤務が45時間を超える教職員は1人である。</p> <p>○1小1中の小中一貫教育が細やかな交流で進められる環境がある。</p>	<p>研究</p> <p>教科等</p> <p>主題・内容等</p>	<p>理科・生活科・総合的な学習の時間</p> <p>「子ども主体の学び」を実現する評価と指導の在り方～児童の「考え」「思い」をもとにした単元づくりを通して～</p>	<p>めざす授業の姿</p> <p>友だちと協働して学ぶことが面白いと感じる授業</p> <p>キーワード：ワクワク感「やってみたい」「なぜだろう」</p>	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立常金丸小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る取組状況	〇評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	〇評価	達成評価	総合評価
1	課題解決力・挑戦する力の育成	★	見直し	友達と協働して学ぶことがおもしろいと感じる授業をつくる。	・児童の「考え」「思い」をもとにした授業を行い、児童の学びに対する振り返りの時間を設ける。	・国語・算数・理科の単元末テストの平均点を80%以上にする。 ・体力テスト県平均以上の種目を70%以上にする。 ・授業の中で発言をつなぐ児童の割合を80%以上にする。								
1	コミュニケーション力・挑戦する力の育成		見直し	児童が互いに認め合い、活発に対話ができるようにする。	・自分の考えを相手にわかりやすく伝えるスキルを身に着けさせる。	・挨拶・返事ができる児童の割合を80%以上にする。 ・自分の考えが認められていると思う児童を80%以上にする。								
1	地域貢献力とともに学校の信頼度を向上させる		見直し	児童が地域と連携した活動を通して、地域の一員としての自覚を持たせる。 児童・保護者・地域の人・教職員が充実感や安心感をもつことができるようにする。	・地域と連携した活動を行い、学んだことを積極的に地域に発信する。 ・教職員各自または組織でスケジュール管理を行い、効率的な業務の遂行を図る。	・「学校が楽しい」「授業がおもしろい」という児童の割合を90%以上にする。 ・行事等の活動について地域の人の肯定的評価を90%以上にする。 ・教職員の勤務時間外在校時間を45時間以内の教職員を100%にする。								

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。